

国際連携溶接計算科学研究拠点第 14 回講演会の報告

国際連携溶接計算科学研究拠点
リーダー 教授 麻寧緒

2022年3月9日(水)国際連携溶接計算科学研究拠点(CCWS)は『数値解析技術と計測技術に基づく接合構造安全性の評価』というテーマで、第14回講演会を対面とオンラインのハイブリッド形式にて開催しました。7名の講師の方々が基調講演や招待講演および研究報告を行い、88名(対面8名、オンライン80名)の方がご参加くださいました。

本講演会の午前中の部で、大阪大学・工学研究科・マテリアル生産科学専攻・大畑充教授が、「材料特性と溶接構造性能をつなぐ延性・脆性破壊モデリング」について基調講演を行いました。続いてJSOL株式会社・エンジニアリング事業部・齊藤啓様が「特性テンソル法を用いた溶接残留応力場におけるき裂進展」を講演しました。その後、本研究拠点の村川英一招へい教授が「特性テンソ

ル法とJWRIAN-Cpropによるき裂評価解析の新しい展開」について報告しました。

午後の部では、慶応義塾大学・理工学部機械工学科・大宮正毅教授が「自動車用高強度薄板鋼板におけるき裂発生・進展挙動計測とその予測」について基調講演を行い、本田技研工業株式会社・材料開発部・土井良一剛様が「自動車用超ハイテンのSPOT溶接継手強度評価～課題と対応～」について講演しました。その後、ニューブックス株式会社・岸田欣増様が「ひずみと温度を長距離でモニタリングするための「高精度光ファイバ分布計測技術を活用する数値解析の新しい可能性」を講演しました。本講演会の最後には本研究拠点の麻寧緒教授が「先進計測・計算技術に基づくソフトウェアJWRIANの研究開発と拡大利用」について成果報告しました。



オンライン講演



講演者写真(左から、大宮教授、麻教授、齊藤様、土井良様、大畑教授、岸田様、村川招へい教授)